

ひまわりからの メッセージ

150号

2024. 5. 13.

NPO ひまわりの花内
西濃園域

発達障がい支援センター

発行人: 中野み子

星野富弘さんの詩画

むらさきかたはみ
紫酢漿草に寄せて



四月二十八日、星野富弘さんが亡くなったそうです。享年七十八歳でした。高校の体育教師だった星野さんが鉄棒から落下し、脊髄損傷し、車椅子生活を余儀なくされたのは二十四歳の時だったといえます。その後、唯一体の自由がきく口で筆をくわえ、多くの詩画を世に送り出して来られました。

私が星野さんの名を知ったのはいつ頃だったか、記憶は薄れてしまいましたが、わが家には毎年星野さんのカレンダーを飾り、絵葉書も必ず購入しています。貧しいNPOを経営している身として、会の活動に賛同して下さる賛助会員の方々に私の心ばかりのお礼として星野さんの絵葉書をお渡しするようになっていくからです。けれども、これから星野さんの新作にはお目にかかれないうと思つたと寂しいかぎりです。

今日のカレンダーの詩画には次のように書かれています。

桜は散ったけれど
今日も花見をした
道端で
アリのハチも一緒
酔っぱらいの
蝶々に
絡まれたりして
ハートの葉っぱは
何もう花なんだらう
満開だった

そして、この詩の下には紫かたはみが描かれています。この絵を描かれた時、名も知らぬ小さな花の美しさに感動されたのでしょうか。野辺に咲くかれんなピンクの花に見惚れていらつしやる星野さんの姿を想像すると、ほのぼのとした思いになります。私は星野さんの詩画によって多くの花の名を知りましたし、その絵葉書を悩みもつ知人や友人の元に送らせていただいたこともありました。

星野さんの詩画にカづけられた方は数多くいらつしやることでしょう。もちろん私もその一人でした。

星野さんには著作も多くあり、私が第一歌集の『深き涯より』を上梓した時には、書名が似ていたこともあって、「星野さんから採ったの?」とか「星野さんから許可をもらったの?」等と言われたこともありましたが、私の歌集名は、二歳で突然亡くなった園児の葬りの席で詠んだ一首からつけたものでした。「抱く胸に軽き汝なり通夜の夜の深き涯より雪の降る音」と、何十年前も前のその夜のことを、ふと思ひ出しました。

人はいつか別れていかなければなりません。今朝の散歩から帰つてくると、植垣の隅に一輪の露草が咲いていました。星野さんだったか、この花をどの様に描かれるのでしょうか。楚々と咲くその藍色の美しさにしばし見入ったひとときでした。

谷口光之先生の講座を終えて

「学習につまずくのある子どもたちの見る力」



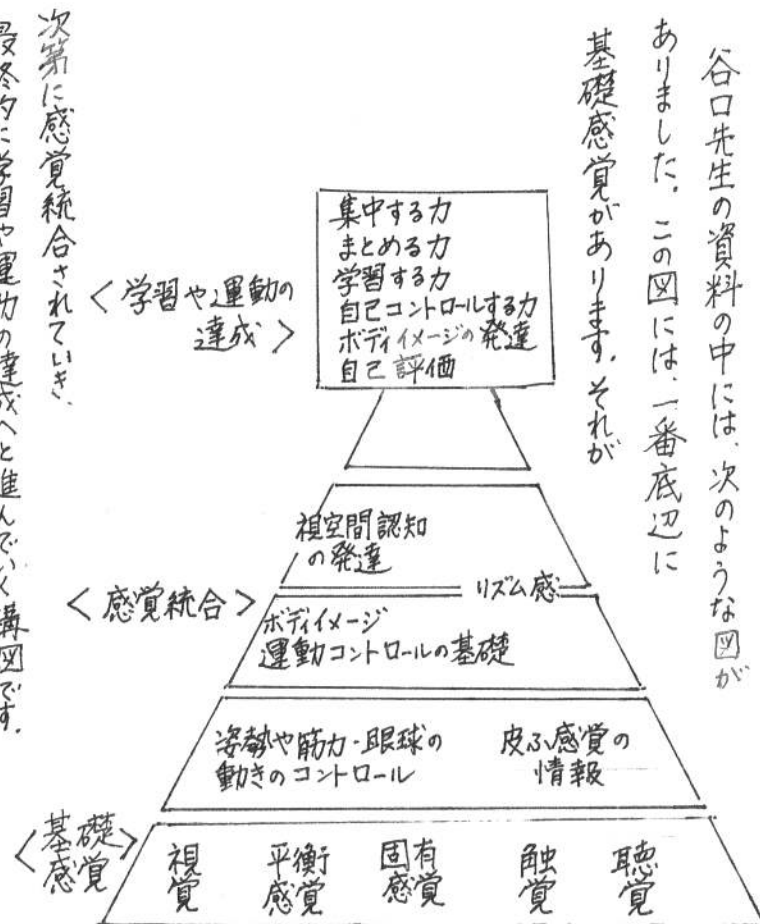
先日、西濃圏域のコーディネーターや通級指導教室の先生方に「見る力」の講座を提供しましたが、いかがでしたか？ 数人の先生方に伺ってみると、「良く分かった」という方、「何だか分かりにくかった」、「写される画面が小さく見づかった」等々のご意見もいただきました。

私は、この「ひまわりからのメッセージ」に何度も目の見え方について書いてきました。バックナンバーを見ていましたら、2021年6月(118号)と、2022年5月(128号)にも取り上げていました。実は、私の三番目の孫は「ドラウニ症候群」という病気で小さい時から物の見え方について大変な思いをしてきましたし、今、私も右目の視野狭窄が進み、両眼視が危なくなっています。発達障害と診断される子どもたちも増え、実はその子どもたちの困りは多動・衝動・不注意などという特性のことだけでなく、見え方による困りもあるということも分かっています。私たちに必要なのは、「よく出来ない」と評価することではなく、それは何に起因するものなのか、もしかしたら見え方の困りから来ているのではないかという視点、気づきをするこ

だろうと思います。幼児用と学童用のチェックリストを谷口先生からいただいたので、つけてみて下さると良いでしょう。(巻末)

谷口先生の資料の中には、次のような図がありました。この図には、一番底辺に

基礎感覚があります。それが



次第に感覚統合されていき、最終的に学習や運動の達成へと進んでいく構図です。

私たちが知っている五感(視覚・聴覚・味覚・嗅覚・触覚)ではなく、固有感覚や平衡感覚(前庭感覚とも言われます)が非常に重要だと考えられること、子どもたちの発達段階で感覚統合を考えていかなければならないことが示されているとも言えるでしょう。

さて、目の見え方に話を戻すと、目の働きとして考えられるものに①視力②目の動き（眼球運動）③調節（ピント合わせ）④両眼視⑤目と手の協応などがあります。この中で子どもたちの困りは何だろうと考えた時、発達障がいの子に多く見られるのが視覚情報の入力の段階の困りです。調査によると、眼球運動はADHDの子に弱さが見られ、ASDの子に困りが無く、ADDで両眼視機能に弱さのある児は57パーセントもいたそうです。LD児は、追従性の眼球運動（本を読む時のようにゆっくりと目を動かすこと）はできたのに飛躍性の眼球運動（板書を書きとめる時のように遠く、近く、遠く、近くと動かすこと）は苦手な子が多かったということでした。

見え方というのは、一人ひとり生まれた時から見えていることなので、見えにくさは自分では分かりません。ですから身近にいる私たちが気づいてあげなければいけないと思います。谷口先生は不器用な子は視機能（見え方）の問題をもっていると言われましたが、確かに目と手が上手く協調して動かないと細かな作業はできません。

また、両眼視ということばを聞かれたことがありますか。これは立体視ともいいます。高さや幅、深さ、狭さなど私たちは自然に測っていて身の危険を回避しているのですが、発達

障がいの子には両眼視ができない子がたくさんいるということでした。大人の人で言えば車の運転の時、バックで車庫入れが上手くできない人や何でもない所でぶつかったり、階段の下りで段差が分からないうといったことがある人などは要注意かもしれません。

では、見え方の問題があるかもしれないからビジョントレーニングのプリントを手当り次第にやっていけば良いのでしょうか。もちろん、そうではありません。見え方の問題で困っているのかもしれないと気づいた時には、まず視機能検査をしてみましょう。WAVES（ウェーブス）と言われるアセスメントツールです。私たちのセンターにもありますので、声をかけていただければお貸しすることもできます。

スマホと脳・目・姿勢



日曜日のテレビの番組でスマホと目の働きについて特集をしていました。街の人達に「どの位の時間、スマホを見ていますか？」という質問に「一時間位です」とか「二時間位です」とか答えていた方々の多くが、自分が思っているよりも数倍の時間を費やしているという結果が出されていました。そこで問題になったのは、姿勢と脳の働きと視力や見え方の問題でした。

スマホを見る時、私たちはたいがい背中を丸めて見えているこ

とが多いと思います。その姿勢が肩こりや首のこりにつながっていきます。スマホを持つていない方の手を脇の下に入れて、スマホを目の高さで見えるようにとのアドバイスがありました。

次に驚いたのは脳の問題でした。ある男性が物忘れがひどくなって認知症外来を訪ねて来られたそうです。専門の医師が検査をしても認知症検査では正常です。そこで脳の血流を調べたところ、何と前頭葉の血液がうまく流れていないことが分かったそうなのです。原因を探ってみました。スマホの見すぎだということがわかったとのことでした。そこでその方は医師のアドバイスに従ってスマホの時間を減らし、散歩時間を増やしたりして改善をはかり、今では認知症状もすっかりおさまって、血液の流れも正常になったということでした。

では、目の症状はどうかというと、視力が落ち、何となくぼやけてピント合わせに時間がかかるようになったそうです。現代人はスマホやパソコンなどブルーライトを浴びることがふえていますから、目の負担も大きくなっているのでしょう。私も視力低下が進み、このままだと失明するのでは……と不安になることもあります。スマホやパソコンで疲れた目を休ませるには、百円ショップで売っている強度の老眼鏡をかけて、ホーツとしか見えない状態で目を休ませるのが良いとアドバイスされています。

ましたが、はて？、私は老眼鏡でますますよく見えるようになってしまっていますから、どんな手段があるのかなあと思いがかりテレビを見ていました。

でも、考えてみると怖いことです。テレビは成人の方のケースを放映していましたが、子どもたちはどうなるのでしょうか。姿勢の悪さはもちろんのこと、脳にはどんな影響が出るのでしょうか。記憶する力が落ち、忘れることが増えて学習の積み上げが難しくなっていくのでしょうか。何も考えずに「スマホを与えておけばおとなしいから……」と、小さい時からスマホ依存に陥っている（いえ、陥らせている？）親さんたちは、子どもの将来をどう考えているのでしょうか。もっとも親さん世代がすでにスマホ依存になっていることが多くいでしょう。子ども達だけの問題ではないのでしょうか。

生活の中の便利なものは、私たちの体や心をいつのまにか蝕んで行ってしまうのかもしれない。そのことを意識の片隅に置いておかないといけませんね！！

お知らせ

6/10 センター親の会

会場はソフトピア
浅パンセンター
(文化会館工事の為)

6/19 ピアサポート

6/26 療育スタッフ研
(海津市文化会館)

成人相談会は

6/7 大野
6/10 揖斐川
6/11 養老
6/14 池田

Ⅱ. お子様に関して一番あてはまると思う選択肢の数字を○印でかこんでください。

幼児期用

	あてはまらない	少しだけあてはまる	だいたいあてはまる	よくあてはまる
1. 動いているボールやおもちゃを目で追ったり、取ったりするのが苦手……	0	1	2	3
2. 物を見るとき、顔を傾ける…… (例. 横目で見る、上目使いで見る、頭を横に傾けてみる など)	0	1	2	3
3. 指さしたり、提示したりした物をすばやく見つけられない……	0	1	2	3
4. 両方の目が同じ方向を見ていないことがある……	0	1	2	3
5. 指先を使った細かい遊びや作業はあまり好きではない……	0	1	2	3
6. つまずいたり、物や人にぶつかったりすることが多い……	0	1	2	3
7. 積木やパズルをしたがらない、または苦手……	0	1	2	3
8. ぬり絵やなぞり書きが苦手……	0	1	2	3
9. ひとつのおもちゃで遊ぶ時間が短く、すぐに飽きてしまう……	0	1	2	3
10. 絵カードの遊びや図形の課題で見比べるのが苦手……	0	1	2	3
11. 目に見える位置の衣服のボタンのとめはずしが苦手……	0	1	2	3
12. 手元をあまり見ずに遊んだり、作業したりする……	0	1	2	3
13. 絵本などを見るとき細かい部分に気づかない……	0	1	2	3
14. 下り階段や平均台など段差のある場所を怖がる……	0	1	2	3
15. 目を細めて物を見る……	0	1	2	3
16. 先生の示す見本や、まわりの子どもの様子を見て行動することができない・	0	1	2	3
17. 方向感覚が悪い…… (何度も通ったことのある道でも、間違った方向に進んでしまう など)	0	1	2	3
18. 園庭や公園などで、遊具やおもちゃをすばやく見つけることができない……	0	1	2	3
19. 物を見るときに、しばしば目をこすったり、まばたきをしたりする……	0	1	2	3
20. 距離を判断するのが苦手(自分から壁までの距離など)……	0	1	2	3
21. 片目をつぶって見る……	0	1	2	3
22. 晴れた日に外に出ると、とてもまぶしがる……	0	1	2	3
23. ハサミを使った作業が苦手……	0	1	2	3
24. 物を見るとき、必要以上に顔を近づける……	0	1	2	3
25. おりがみが苦手……	0	1	2	3

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

名前: _____ 学年: _____ 年齢: _____ 才 _____ ヵ月 _____

眼科疾患: _____ 視力検査 右: _____

眼鏡装用: _____ 左: _____

0: あてはまらない 1: 少しだけあてはまる 2: だいたいあてはまる 3: よくあてはまる

0:あてはまらない 1:少しだけあてはまる 2:だいたいあてはまる 3:よくあてはまる

1	近くの物を見る作業や本読みをするととても疲れる	
2	文字を書くと形が崩れる	
3	文の終わりを省略して読んだり、勝手に読みかえたりする	
4	読んでいるとき、行や列を読み飛ばしたり、繰り返し読んだりする	
5	表の縦や横の列を見誤る（百ます計算など）	
6	近くの物を見る作業や読むことを避ける	
7*	地図を見て理解するのが苦手（地図を読みとるのが苦手）	
8	指で文字をたどりながら読む	
9	形がよく似た文字を読み間違えることが多い	
10	黒板を写すのが苦手または遅い	
11	指さしたり、提示したりした物をすばやく見つけられない	
12*	晴れた日に外に出ると、とてもまぶしがる	
13*	鏡文字がある	
14	宿題を終えるのにとても時間がかかる	
15	ラケットやバットでボールを打つのが苦手	
16	積木やパズルをしたがらない	
17	箸をうまく使えない	
18*	長い/短い、大きい/小さいを見比べて判断するのが難しい	
19*	授業中、課題を時間内に終わらせることができない	
20	図形や絵を見て同じように書き写すことが苦手	
21	長い時間、集中して読むことができない	
22*	片目をつぶって見る	
23	おりがみが苦手	
24	ハサミを使った作業が苦手	
25	文章を書くと、文字が一行にそろわない	
26	ピアノやリコーダーがうまく演奏できない	
27	（ピーズなど）ひもを穴に通すのが難しい	
28	目に見える位置で行う蝶々むすびがうまくできない	
29	図形の問題が苦手	
30	目に見える位置の衣服のボタンのとめはずしが苦	
31	両方の目が同じ方向を見ていないことがある	
32	距離を判断するのが苦手（自分から壁までの距離など）	
33	目の前にある物をなかなか見つけられない	
34	下りの階段や高い遊具への昇り降りを怖がる	
35	数字、かな文字、漢字の習得にとっても時間がかかる	
36	つまずいたり、物や人にぶつかったりすることが多い	
37	目を細めて物を見る	
38	物を見るとき、顔を傾ける (例、横目で見る、上目使いで見る、頭を横に傾けてみる など)	
39	方向感覚が悪い (何度も通ったことのある道でも、間違った方向に進んでしまう など)	
40	物を見るときに、しばしば目をこすったり、まばたきをしたりする	
41	定規などの目盛が読みにくい	
42	物を見るとき、必要以上に顔を近づける	
43	ボールを受けるのが苦手	
44	定規、分度器、コンパスを上手に使えない	
45	表やグラフを理解するのが苦手	

[illegible]

A:読み書き関連の視活動	読み書きに関連した、視覚性注意のコントロールや視線移動を行う力
B:手指の操作	手元の空間で、視覚情報と連動して指や手の動きをコントロールする力
C:空間の認知	空間的な位置、方向、距離感を認識する力
D:注視関連の症状	物を見る際の、目や頭位に関する症状の有無

*: 参考項目

A:9点以上、B:9点以上、C:8点以上、D:2点以上 の場合はそれぞれの力の問題が疑われる。その場合は視覚および運動に関するアセスメントを行い、疑われる問題に関して確認することが望ましい。

総得点	
評価	
基準	0-28